

東京柔道整復専門学校

1, 2期担当される22コマ分です

開講課程		開講学科		コース		昼夜別	
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		午前部	
開講年度		履修課程		担当教員			
2025	年度	1年生	第1、2、3期	川上智志/瀬谷智美/大坂真理子			
講義区分		授業科目名					
基礎分野		総合基礎①				8	単位 120 時間

【科目概要】

- ・柔道整復師として、理解しておかなければならない基礎的な社会保険の仕組みを理解する。
- ・公的年金制度、雇用保険制度、労災補償制度、生活困窮者自立支援制度の理解を深め、必要に応じて活用できる能力を育成する。
- ・事例課題を用いて、具体的な制度活用方法や活用するための要件の理解を深める。

【到達目標】

- ・わが国のセーフティーネットについて、その種類と制度の概要を把握する。
- ・社会保険制度について、患者に説明できる能力を身に付けると共に、必要に応じて自らが活用できる能力を育成する。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価し、100点満点中60点以上で合格とする。
- ・単位取得に満たない生徒には、課題提出や追再試験を実施する。

【使用教材】

- ・单元ごとにプリントを配布

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	わが国における社会保険制度の概要①	講義
2	わが国における社会保険制度の概要②	講義
3	生活困窮者自立支援制度①	講義
4	生活困窮者自立支援制度②	講義
5	生活困窮者自立支援制度③	講義
6	公的年金制度①	講義
7	公的年金制度②	講義
8	公的年金制度③	講義
9	公的年金制度④	講義
10	医療保険制度の概要①	講義
11	医療保険制度の概要②	講義
12	医療保険制度の概要③	講義
13	医療保険制度の概要④	講義
14	雇用保険制度①	講義
15	雇用保険制度②	講義
16	雇用保険制度③	講義
17	雇用保険制度③	講義
18	労災補償制度①	講義
19	労災補償制度②	講義
20	労災補償制度③	講義
21	まとめ・復習	講義
22	まとめ・復習	講義
23	生体を構成する物質 p20～p23	講義
24	細胞の構造と構成成分 p24～p27、p30～p32、p42～p43	講義
25	細胞と遺伝子 p74～p75、p82～p83、p84～p85	講義
26	消化と吸収（１） （消化のしくみ・酵素反応のしくみ） p48～p51、p172	講義
27	消化と吸収（２） （吸収のしくみ・肝臓のはたらき・血液の組成導入） p169、p173	講義
28	血液の組成と機能（１） （赤血球のはたらき） p165、p167	講義
29	血液の組成と機能（２） （血液循環） p166	講義
30	血液の組成と機能（３） （免疫） p174～p185	講義
31	血液の組成と機能（４） （血液凝固・恒常性導入） p168	講義
32	恒常性の維持（１） （腎臓の構造と機能） p170～p171	講義
33	恒常性の維持（２） （ホルモン） p160～p164	講義
34	恒常性の維持（３） （自律神経） p158～p159	講義
35	神経系（生理学導入） p193～p198	講義
36	まとめ（試験対策）	講義
37	試験解説	講義

38	障がいについて ― 身体障がい(脊髄損傷、脳性麻痺、切断)	講義
39	障がいについて ― 身体障がい(脊髄損傷、脳性麻痺、切断)	講義
40	障がいについて ― 身体障がい(聴覚障がい、視覚障がい)	講義
41	障がいについて ― 身体障がい(聴覚障がい、視覚障がい)	講義
42	障がいについて ― 知的障がい	講義
43	障がいについて ― 知的障がい	講義
44	障がいについて ― 精神障がい	講義
45	障がいについて ― 精神障がい	講義
46	障がい者を取り巻く環境について ― 障害者差別解消法	講義
47	障がい者を取り巻く環境について ― 障害者差別解消法	講義
48	障がい者を取り巻く環境について ― 障がい受容の過程	講義
49	障がい者を取り巻く環境について ― 障がい受容の過程	講義
50	障がい者を取り巻く環境について ― 障がいと社会環境(車いす利用者)	講義
51	障がい者を取り巻く環境について ― 障がいと社会環境(脳性麻痺などによる運動障がい)	講義
52	障がい者を取り巻く環境について ― 障がいと社会環境(義肢・装具)	講義
53	障がい者スポーツとパラリンピック ― 代表的なパラスポーツ競技(陸上競技)	講義
54	障がい者スポーツとパラリンピック ― 代表的なパラスポーツ競技(陸上競技)	講義
55	障がい者スポーツとパラリンピック ― 代表的なパラスポーツ競技(ゴールボール)	講義
56	障がい者スポーツとパラリンピック ― 代表的なパラスポーツ競技(ゴールボール)	講義
57	障がい者スポーツとパラリンピック ― 代表的なパラスポーツ競技(ウィルチェアラグビー)	講義
58	障がい者スポーツとパラリンピック ― 代表的なパラスポーツ競技(ウィルチェアラグビー)	講義
59	まとめ	講義
60	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2025年度	履修課程 1年生 第1・2・3期	担当教員 人間総合科学大学	
講義区分 基礎分野	授業科目名 総合基礎通信	4単位	60時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師としてだけでなく、社会人として必要な教養を身につけることを目的とする。
・通常授業では接する機会が少ない項目に触れ、多方面での応用が利くようにする。
【講義概要】
▶生活習慣と健康
・健康な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識することを目的とする。
・生活習慣病、メタボリックシンドローム、アルコール、喫煙の健康影響について学び、生活と健康習慣の関係及び運動の意義と効果について、身体的、社会的な視点から説明できるようにする。
▶コミュニケーション入門
・医療、福祉の現場に限らず、コミュニケーション全般についてその概要を理解することと目的とする。
・コミュニケーションの一般的な理解を深め、その一部分として慰労、福祉分野におけるコミュニケーションも学
【成績評価方法】
・人間総合科学大学が定めた時期に試験を実施し評価する。
・人間総合科学大学にて指定された課題を実施し、試験前に学習の確認を実施する。
・人間総合科学大学が作成した試験の結果にて、A B C評価で判定する。（Cは不合格）
【授業の特徴・形式】
・人間総合科学大学による自宅での学習。
【教員紹介】
学校法人 早稲田医療学園 人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科（通信制） 文部科学省認可通信教育課程 平成30年4月から施行された柔道整復師養成
【教科書・参考書】
・生活習慣と健康 人間総合科学大学
・医療、福祉現場のコミュニケーション 三輪書店

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1			
2	6月	テキスト、課題配布	
3		以後、自宅にて学習する。	
4	7月	課題提出	
5	9月	試験を実施	
6		※試験にて合格点に達しない場合は上記の内容をやり直す。	

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	1年生 第1期、2期		
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学①		2単位 60時間

【科目概要】 解剖学は医療系の基盤となる学問である。本講義では「骨格系および筋系」についての講義を行う。主に1学期に骨格系、2学期に筋系について講義を行う。 ・骨の構造の説明および骨の連結（特に関節）の分類と特徴を例をあげて説明を行う。 ・全身の骨およびその部位について図を用いて説明する。また関節およびその他の特徴について説明する。 ・全身の筋について、図を用いて名称、付着部（起始・停止）、関節への作用および支配神経について説明する。 ※骨の部位名（1学期内容）は筋の付着部（2学期内容）において必須であるため、<u>1学期の内容は1学期中に覚え、理解することを望む。</u>また解剖学（筋骨格系）は柔整理論(骨折の転位など)および臨床系科目など他の科目の理解に強く関連するため、講義ごと・学期内での理解が望まれる。 2学期内容（筋系）では、名称に加えて付着部位（起始・停止）や神経も覚えるため、1学期よりも努力を要する。
【到達目標】 骨格系においては主に骨名称および部位名称を理解し、図を用いて説明できること。筋においては筋名称、付着部位（起始・停止）、支配神経および作用を理解し、図を用いて説明できることを目標とする。 各項における具体的目標を下記に示す。 ・骨の基本的構造について理解し、骨の連結（特に関節）についての分類と特徴を説明できる。 ・骨の部位について、名称および特徴を図（または模型）を用いて説明できる。 ・筋については、主に筋名称、筋の付着部（起始・停止）の名称、支配神経および関節への作用を図（または模型等）を用いて説明できる。
【授業外における学習方法】 ・各講義ごとにプリント（要点穴埋め形式および筋骨格図）を配布する。プリントは教科書に沿って作成しており、教科書内容に沿って講義を進める。より理解を深めるためには教科書を読むよう心がけてほしい。 ・各範囲の重要事項（講義内容まとめ）をプリント末尾に問題形式にて記載する。解剖学（筋骨）は名称や用語などの記憶する内容が多く、講義中だけでは全てを覚えるのは難しい。各講義30分程度の復習が必須であるため、復習の参考にしていただきたい。
【成績評価方法】 ・定期試験70%、講義内試験20%、授業態度10%の総合判定を行う。 ・授業態度10%は居眠り、無関係な私語・電子機器操作などの不適切な授業態度について減算方式でおこなう。 ・総合判定は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。 ・合格点に満たない(60点未満)生徒には再試験および、課題等の提出を求める場合がある。
【使用教材】 ・配布プリント 教科書：解剖学 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版 参考書：ネッター解剖学アトラス、プロメテウス解剖学アトラス
【その他】 ・講義内容は進捗状況で前後する場合がある。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション・解剖学総論(p1～2)	講義
2	骨の役割、性状、構造(p21～)	講義
3	骨の発生と成長、連結、関節(p25～)	講義
4	脊柱(頸椎・胸椎・腰椎・仙骨)(p28～)	講義
5	胸郭(胸骨、肋骨)、上肢骨、肩甲骨、鎖骨(p33～)	講義
6	1学期 前半範囲復習(p1～2、p21～33)	講義
7	1学期前半 まとめ および 確認演習	講義
8	上腕骨、橈骨、尺骨、手の骨、関節(p38～)	講義
9	下肢骨、寛骨、大腿骨(p47～)	講義
10	下腿骨、足部の骨、下肢の関節(p52～)	講義
11	脳頭蓋、顔面頭蓋(p59～)	講義
12	頭蓋冠・底・側面・泉門、関節(p64～)	講義
13	骨 後半範囲復習(p38～p69)	講義
14	全身の関節(部位・形状・構成骨)復習	講義
15	定期テスト解説および復習	講義
16	筋総論、表情筋、咀嚼筋、頸部の筋(p70～)	講義
17	浅・深胸筋・横隔膜・腹筋(p81～)	講義
18	浅背筋・深背筋・脊柱起立筋(p88～)	講義
19	上肢帯・上腕屈筋・上腕伸筋(p92～)	講義
20	前腕屈筋(p97～)	講義
21	前腕伸筋(p100～)	講義
22	2学期 前半範囲復習(p70～p102)	講義
23	2学期前半範囲 まとめ および 確認演習	講義
24	手部の筋・内寛骨筋(p103～)	講義
25	外寛骨筋・大腿伸筋(p108～)	講義
26	大腿内転筋・屈筋・下腿伸筋(p112～)	講義
27	下腿腓骨筋・屈筋(p114～)	講義
28	2学期 後半範囲復習(p70～p122)	講義
29	定期テスト解説および復習	講義
30	筋・骨格 総まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	1年生 第1期、2期	松川 睦	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学②		2 単位 60 時間

【科目概要】
循環器系（脈管系）・内臓系（消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系）の各構造をその機能（役割）と関連付けて述べるができること。
【到達目標】
人体の構造（何が、どこに、どの様に、どんな形で存在するのか）を理解すること。 各構造や部位の名称および必要な専門用語（医学用語）を取得し、使用することができること。
【授業外における学習方法】
授業プリントの復習を基本とし、適宜、教科書などを用いた自学自習により機能的理解を深めてほしい。
【成績評価方法】
定期試験にて評価する。 100点満点中60点以上を合格とする。
【使用教材】
授業でプリントを配布して記述する。
【その他】 参考図書
分担 解剖学 2巻（脈管学・神経系）・3巻（感覚器学・内臓学） 金原出版 カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 西村書店 ヒューマンボディ からだの不思議がわかる解剖生理学 エルゼビア・ジャパン

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	解剖学総論 P.1～3	講義
2	細胞 P.3～8	講義
3	組織 P.8～14	講義
4	発生・人体の区分 P.14～20	講義
5	脈管総論 P.123～126	講義
6	心臓 P.127～133	講義
7	動脈系① P.133～137	講義
8	動脈系② P.137～139	講義
9	動脈系③ P.140～145	講義
10	静脈系① P.145～148	講義
11	静脈系②・胎児循環 P.148～152	講義
12	リンパ系① P.152～154	講義
13	リンパ系② P.154～156	講義
14	消化器系① P.157～163	講義
15	試験解説	講義
16	消化器系② P.163～167	講義
17	消化器系③ P.167～171	講義
18	消化器系④ P.171～177	講義
19	呼吸器系① P.177～179	講義
20	呼吸器系② P.180～182	講義
21	呼吸器系③ P.182～186	講義
22	泌尿器系① P.186～190	講義
23	泌尿器系② P.190～192	講義
24	生殖器系① P.192～197	講義
25	生殖器系② P.197～200	講義
26	生殖器系③ P.200～205	講義
27	内分泌系① P.207～210	講義
28	内分泌系② P.210～212	講義
29	内分泌系③ P.212～215	講義
30	試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講過程		開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程		柔道整復科	柔道整復コース(1年生)	午前部
開講年度		履修過程	担当教員	
2025	年度	1年 第1期、2期	岩田 幸一	
講義区分		授業科目名		
基礎分野		生理学①		2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

人体が備えている様々な機能について学び、柔道整復師として知っておくべき臓器の働きおよびその調節機構を理解する。必ず事前に教科書を読んで、授業内容を予習してきてください。また、授業に関するプリントを配布しますので、その日の授業内容について復習も欠かさず行ってください。授業の内容について疑問が生じた場合にはそのままにせず、教員に質問してその場で理解するよう心掛けてください。

【講義概要】

生理学とは健康なヒトの身体の仕組みと働きを扱う学問であります。そのため、細胞内器官の様々な働きおよび臓器と臓器の機能的な関係を学ぶ必要があり、機能だけでなく細胞や臓器の解剖学的な特徴に関する内容を含めた講義を実践する予定です。

【成績評価方法】

各学期終了前に行う定期試験の結果（90％）および出席日数（10％）の合計によって評価します。

【授業の特徴・形式】

各授業の項目ごとにあらかじめプリントを配布し、その内容に沿って講義を進めます。講義の初めには先週の復習、終了前にはその日に行った講義内容に対する試験およびその解説を行います。試験は当日配ったプリントを参考にして回答してください。

【教科書・参考書】

教科書：生理学、改訂第4班、南江堂、彼末一之編集
参考書：標準生理学、第9班、医学書院

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	4・7	生理学とは	p1－p10
2	4・14	筋の生理(1)	p11－p14
3	4・21	筋の生理(2)	p14－p17
4	4・28	筋の生理(3)	p17－p19
5	5・12	筋の生理(4)	p19－p21
6	5・19	神経(1)	p22－p26
7	5・26	神経(2)	p26－p30
8	6・2	神経(3)	p30－p34
9	6・9	神経(4)	p34－p37
10	6・16	神経(5)	p37－p42
11	6・23	運動の生理(1)	p43－p52
12	6・30	運動の生理(2)	p53－p55
13	7・7	運動の生理総合復習	
14	7・14	試験前講義	
15	7・28	試験問題解説	
16	8・25	感覚の生理(1)	p55－p58
17	9・1	感覚の生理(2)	p59－p62
18	9・8	感覚の生理(3)	p74－p82
19	9・15	感覚の生理(4)	p67－p74
20	9・22	感覚の生理(5)	p62－p67
21	10・29	感覚の生理総合復習	
22	10・6	内分泌(1)	p83－p90
23	10・20	内分泌(2)	p90－p101
24	10・27	生殖	p103－p114
25	11・10	血液(1)	p115－p120
26	11・17	血液(2)	p120－p132
27	11・24	骨の生理(1)	p133－p135
28	12・1	試験前講義	
29	12・8	試験問題解説	
30	12・15	総合復習	

東京柔道整復専門学校

開講課程		開講学科		コース		昼夜別			
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		午前部			
開講年度		履修課程		担当教員					
2025	年度	1年生	第1期	川上智志					
講義区分		授業科目名							
専門基礎分野		職業倫理				1	単位	15	時間

【科目概要】

医療人としての質を確保するため、医療従事者の医療倫理に関して、医療における従来の倫理観から現代的倫理観への経緯と柔道整復師としての基本的倫理観の理解する。また、柔道整復師として日常の業務で遭遇するさまざまな患者対応について、ケース・スタディを用いて生徒間の意見共有をはかりながら学習を展開していく。

【到達目標】

ケース・スタディを通して、他者と協力して課題に取り組む力や主的に考え、行動する力を身に付ける。医療従事者としての職業倫理を適切に把握し、柔道整復師としての業務に携わる際に、適切な判断ができるようになる。

【授業外における学習方法】

授業での学習内容の復習を徹底する。

【成績評価方法】

各授業内で実施する課題により評価する。

【使用教材】

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 全国柔道整復学校協会 監修 (医歯薬出版)
配布プリント

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	職業倫理・医療倫理、患者の権利	講義
2	個人情報の保護、医療の安全(リスクマネジメント)	講義
3	医療の安全(医療事故と医療過誤)	講義
4	ケース・スタディ	講義
5	ケース・スタディ	講義
6	ケース・スタディ	講義
7	ケース・スタディ	講義
8	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程		開講学科		コース		昼夜別	
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		午前部	
開講年度		履修課程		担当教員			
2025	年度	1年生	第1.2期	紺野 直能			
講義区分		授業科目名					
専門基礎分野		柔道①				2	単位 60 時間

【科目概要】 武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。
【到達目標】 柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投技、固技の理合を理解し、乱取稽古ができるようにする。
【授業外における学習方法】 【成績評価方法】 授業意欲、態度、実技試験、（レポート）。授業意欲、態度 5 0 %、実技試験 5 0 %の合計 1 0 0 % 出席回数（各学期にて 3 回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）
【使用教材】
【その他】 講義は各自の柔道衣を着用して受けること。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	柔道整復師と講道館柔道、柔道授業の目的	実技
2	柔道衣の着方、礼法、基本動作(姿勢、組み方、進退動作、体捌き、崩し)	実技
3	柔道衣の着方、礼法、基本動作(姿勢、組み方、進退動作、体捌き、崩し)	実技
4	受身(後受身、前受身、横受身、前回受身)	実技
5	受身(後受身、前受身、横受身、前回受身)	実技
6	立技 足技(膝車)、腰技(大腰)、手技(体落)	実技
7	立技 足技(膝車)、腰技(大腰)、手技(体落)	実技
8	立技 足技(膝車)、腰技(大腰)、手技(体落)	実技
9	立技 足技(膝車)、腰技(大腰)、手技(体落)	実技
10	立技 打ち込み、移動打ち込み、投げ込み	実技
11	立技 打ち込み、移動打ち込み、投げ込み	実技
12	立技 打ち込み、移動打ち込み、投げ込み	実技
13	立技の乱取り稽古	実技
14	立技の乱取り稽古	実技
15	立技の乱取り稽古	実技
16	立技 打ち込み、移動打ち込み、投げ込み	実技
17	固技 袈裟固、横四方固、上四方固、絞技(裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞め)、関節技(腕挫十字固)	実技
18	固技 袈裟固、横四方固、上四方固、絞技(裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞め)、関節技(腕挫十字固)	実技
19	固技 袈裟固、横四方固、上四方固、絞技(裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞め)、関節技(腕挫十字固)	実技
20	礼法、受身、基本動作、打ち込み、投げ込み、審判規定、立技、固技の乱取り稽古	実技
21	礼法、受身、基本動作、打ち込み、投げ込み、審判規定、立技、固技の乱取り稽古	実技
22	礼法、受身、基本動作、打ち込み、投げ込み、審判規定、立技、固技の乱取り稽古	実技
23	立技、固技の乱取り稽古	実技
24	立技、固技の乱取り稽古	実技
25	立技、固技の乱取り稽古	実技
26	立技、固技の乱取り稽古	実技
27	立技、固技の乱取り稽古	実技
28	立技、固技の乱取り稽古	実技
29	立技、固技の乱取り稽古	実技
30	立技、固技の乱取り稽古	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程		開講学科		コース		昼夜別	
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		午前部	
開講年度		履修課程		担当教員			
2025	年度	1年生	第1期	吉田 晋			
講義区分		授業科目名					
専門分野		基礎柔道整復学①				2 単位	60 時間

【科目概要】

●骨折と言っても、実際は様々な骨折の種類や分類がある。この科目では、「骨折」についての基礎

を学ぶ。

●この科目の知識が2期から始まる各論に直結することを意識してもらいたい。

●授業プリントを配布し、キーワードを板書する方式

【到達目標】

- ① 様々な〇〇骨折についてどういう分類なのか説明できるようにする。
- ② 骨折の症状（一般外傷症状・固有症状）について説明できるようにする。
- ③ 骨折の様々な合併症について説明できるようにする。
- ④ 小児・高齢者骨折の特徴を説明できるようにする。
- ⑤ 骨折の治癒過程を説明できるようにする。

【授業外における学習方法】

- ① 授業前に教科書を通読すること（意味が理解できなくても実施してもらいたい）

【成績評価方法】

- ① 出席状況、授業態度も考量する場合がある。
- ② 中間試験：40％ 期末試験：60％ 合計100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ③ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、再試験を実施する。

【使用教材】

- ① 全国柔道整復学校協会 監修 「柔道整復学・理論編」

【その他】

将来、学生諸君が外傷患者に遭遇したときに、患者さんが骨折、脱臼、軟部組織損傷なのかを判別する際の知識となる大事な科目です。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	イントロダクション①(人体各部の名称、関節の動きについて)	講義
2	イントロダクション②(人体各部の名称、関節の動きについて)	講義
3	骨の構造(P.20-)	講義
4	疲労骨折(P.23-)	講義
5	病的骨折～不全骨折(P.23-25)	講義
6	不全骨折(P.25)	講義
7	開放性骨折(P.25-26)	講義
8	外力の働き方による分類①(P.27-)	講義
9	外力の働き方による分類②(P.28-)	講義
10	骨折の症状(一般外傷症状)(P.31-)	講義
11	骨折の症状(固有症状)(P.32-)	講義
12	骨折の症状(固有症状)(P.34-)	講義
13	中間試験	講義
14	骨折の合併症(併発症)(P.35-)	講義
15	骨折の合併症(併発症)(P.35-)	講義
16	骨折の合併症(続発症)(P.35-36)	講義
17	骨折の合併症(続発症)(P.36-)	講義
18	骨折の合併症(後遺症)(P.36-)	講義
19	骨折の合併症(後遺症)(P.37-38)	講義
20	小児骨折の特徴①(P.39-)	講義
21	小児骨折の特徴②(ソルターハリス分類)(P.40-)	講義
22	高齢者骨折の特徴①(P.41-)	講義
23	高齢者骨折の特徴②(P.41-)	講義
24	骨折の治癒過程(P.43-)	講義
25	まとめ①・演習課題	講義
26	まとめ②・演習課題	講義
27	まとめ③・演習課題	講義
28	まとめ④・演習課題	講義
29	まとめ⑤・演習課題	講義
30	試験解説、症例報告	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	1年生 第1期	有馬宏昌	
講義区分	授業科目名		
専門分野	基礎柔道整復学② 脱臼&軟損		1 単位 30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復学を理解する上で重要な柔道整復学総論を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。 ・脱臼、軟部組織の総論を学び、各論を学ぶ上での基礎固めを行う。 ・総論が実際の外傷とどのように関連しているかを学ぶことにより、臨床現場に活用できる知識を習得する。
【講義概要】
・骨模型や立体図を使用して関節や筋肉の構造を把握し、脱臼・軟部組織損傷を理解できるよう進めていく。
【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。 ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。 ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。 ・単位取得に満たない生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。
【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。 ・教科書を中心に、補足資料を配布してすすめていく。
【教科書・参考書】
・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	関節の構造と機能	講義
2	関節部損傷の概要・関節部損傷の分類・鑑別診断を要する類症	講義
3	脱臼(定義と概要・発生機序・分類・症状・合併症・整復障害)	講義
4	脱臼(定義と概要・発生機序・分類・症状・合併症・整復障害)	講義
5	脱臼(定義と概要・発生機序・分類・症状・合併症・整復障害)	講義
6	関節構成組織損傷(靱帯・関節包の損傷・関節軟骨損傷・その他関節構成の損傷)	講義
7	関節構成組織損傷(靱帯・関節包の損傷・関節軟骨損傷・その他関節構成の損傷)	講義
8	筋の損傷(筋の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序・予後)	講義
9	筋の損傷(筋の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序・予後)	講義
10	腱の損傷(腱の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序)	講義
11	腱の損傷(腱の構造と機能・概説・分類・症状・治癒機序)	講義
12	末梢神経の損傷(神経の構造と機能・概説・分類・症状・治癒過程)	講義
13	末梢神経の損傷(神経の構造と機能・概説・分類・症状・治癒過程)	講義
14	総復習①	講義
15	総復習②	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	1年生 第1期	◎大林典弘／村越嵩紀	
講義区分	授業科目名		
専門分野	基礎柔道整復学③		1 単位 30 時間

【科目概要】 ・柔道整復師は患者に施術行為を行うため、施術行為による効果やどのような現象が体の中で起こっているのかを理解して患者に説明する必要がある。人体の構造と機能を元に患者にわかりやすく伝えられるようになるために、基本的な事項を着実に習得してもらいたい。
【到達目標】 ・1年次は柔道整復学の基礎総論と基礎医学(解剖学・生理学)を中心に学びを進める。そのため本講義では人体の構造と機能の観点から柔道整復学を理解し考察できる能力を身につける。また上級学年での柔道整復各論に速やかに移行できるように配慮しながら学習を進める。
【授業外における学習方法】 ・事前学習(予習)として、身体の構造に興味をもち解剖学の教科書を見たり、人体模型等を観察する。 ・事後学習(復習)として、演習や講義で実施した内容を復習しておくこと。
【成績評価方法】 ・授業内試験、履修状況(授業への積極的な参加、グループワークでの発表など)で評価する。 ・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。 ・単位取得に満たない(60点未満)生徒には課題提出等をもとめる場合がある。 ・授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価する。 ※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。
【使用教材】 ・配布資料 ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂 ・全国柔道整復学校協会監修「解剖学」第2版 医歯薬出版
【その他】 ・演習形式と講義形式の2パターンで実施する。 ・1講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。欠席することの無いように体調管理には充分配慮する ・授業で使用する模型等は大切に扱うこと。 ・授業時間内で理解できなかった箇所、疑問点はそのままにせず早めに解決すること。図書室などを利用し専門書にて理解度を深めてください。教員への質問は歓迎します。 ※授業の進度によって内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について) 運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する① 事後学習(復習): シラバスを見直すこと	講義・演習
2	運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する② 事前学習(予習): 解剖学の教科書を用いて運動器について予習する 事後学習(復習): 配布資料を見直すこと	講義・演習
3	運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する③ 事前学習(予習): 解剖学の教科書を用いて運動器について予習する 事後学習(復習): 配布資料を見直すこと	講義・演習
4	柔道整復師を知る①(柔道整復師に関する実務を理解し将来の目標を定める) 事前学習: 柔道整復師の業務について調べておくこと 事後学習: 配布資料を見直すこと	講義・演習
5	運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する④ 事前学習(予習): 解剖学の教科書を用いて運動器について予習する 事後学習(復習): 配布資料を見直すこと	講義・演習
6	運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する⑤ 事前学習(予習): 解剖学の教科書を用いて運動器について予習する 事後学習(復習): 配布資料を見直すこと	講義・演習
7	復習1(第1回～第6回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第6回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内試験1(第1～6回講義分)	講義・演習
8	運動器損傷の合併症に関わる人体構造と機能を理解する① 事前学習: 解剖学の教科書を用いて運動器について予習する 事後学習: 配布資料を見直すこと	講義・演習
9	運動器損傷の合併症に関わる人体構造と機能を理解する② 事前学習: 解剖学の教科書を用いて運動器について予習する 事後学習: 配布資料を見直すこと	講義・演習
10	運動器損傷(骨折、脱臼、捻挫、挫傷)の症状を理解する① 事前学習: 柔道整復学の教科書を用いて予習する 事後学習: 配布資料を見直すこと	講義・演習
11	運動器損傷(骨折、脱臼、捻挫、挫傷)の症状を理解する② 事前学習: 柔道整復学の教科書を用いて予習する 事後学習: 配布資料を見直すこと	講義・演習
12	運動器損傷(骨折、脱臼、捻挫、挫傷)の症状を理解する③ 事前学習: 柔道整復学の教科書を用いて予習する 事後学習: 配布資料を見直すこと	講義・演習
13	復習2(第8回～第12回の復習を目的とする) 事前学習: 第8回～第12回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内試験2(第8～12回講義分)	講義・演習
14	復習3および総括(第1回～第13回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第13回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内試験3(第1～13回講義分)	講義・演習
15	柔道整復師を知る②(柔道整復師に関する実務を理解し将来の目標を定める) 事前学習: 柔道整復師の業務について調べておくこと 事後学習: 配布資料を見直すこと	講義・演習

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 午前部
開講年度 2025 年度	履修課程 1年生 第2期	担当教員 有馬宏昌	
講義区分 専門分野	授業科目名 基礎柔整④ 脱臼上肢		1 単位 30 時間

【科目概要】 ・教科書に記載されている理論と臨床現場における処置等、理論に沿ってしっかりとした技術習得並びに重要項目をしっかりと習得できるように指導
【到達目標】 ・各部脱臼の病態・発生機序・症状等を理解する。
【授業外における学習方法】 ・柔道整復理論の教科書にて予習、復習
【成績評価方法】 ・定期試験にて評価する。 ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。 ・定期試験は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
【使用教材】 ・柔道整復学 理論編 南江堂 ・柔道整復学 実技編 南江堂
【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	鎖骨脱臼	講義
2	鎖骨脱臼	講義
3	肩関節脱臼	講義
4	肩関節脱臼	講義
5	肩関節脱臼	講義
6	肘関節脱臼	講義
7	肘関節脱臼	講義
8	手関節部の脱臼	講義
9	手関節部の脱臼	講義
10	手根中手関節の脱臼	講義
11	手根中手関節の脱臼	講義
12	中手指節関節、指節間関節の脱臼	講義
13	中手指節関節、指節間関節の脱臼	講義
14	復習	講義
15	試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 午前部
開講年度 2025 年度	履修課程 1年生 第1期、2期	担当教員 梅本 彰吾	
講義区分 専門分野	授業科目名 基礎柔道整復学⑤		2 単位 60 時間

【科目概要】

- ・医療としての基本的診察の概説を学び、治療計画を作成する。
- ・柔道整復師が行う治療法全般の基礎を理解し、個々の症例に応用できる治療計画を作成する能力を学ぶ。

【到達目標】

- ・診察 注意点・手順・病歴聴取・身体診察の流れ・時期の分類・治療計画作成・施術録の取扱いと記載方法
- ・治療法 整復法・固定法・後療法・指導管理

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査
- ・具体的な評価は、授業中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【使用教材】

- ・授業プリント主体
- ・柔道整復学理論編
- ・柔道整復学実技編

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	診察時の注意点・診察手順の概説	講義
2	診察時期の分類・治療計画の作成・施術録の取扱いと記載	講義
3	徒手整復施行時の配慮	講義
4	骨折の整復法	講義
5	脱臼の整復法・徒手整復後の確認と配慮	講義
6	軟部組織損傷の初期処置	講義
7	固定施行時の配慮	講義
8	固定後の配慮	講義
9	固定具	講義
10	概論～手技療法	講義
11	運動療法	講義
12	運動療法の種類	講義
13	実技	実技
14	実技	実技
15	試験解説	講義
16	物理療法（概論）	講義
17	寒冷療法	講義
18	伝導熱療法	講義
19	輻射熱療法・変換熱療法	講義
20	超音波療法	講義
21	光線療法	講義
22	電気療法	講義
23	電気療法	講義
24	牽引療法	講義
25	概論・日常生活動作、環境の指導管理	講義
26	住宅環境・就労・就学・スポーツ活動の指導管理	講義
27	実技	実技
28	実技	実技
29	総復習	講義
30	試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	1年生 第3期	吉田 晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	基礎柔道整復特講		3 単位 90 時間

【科目概要】 頭部や脊柱部の骨折は将来的に遭遇しても柔道整復の適応となることは少ないが、判別することが重要となるので、特徴は抑えておきたい。
【到達目標】 以下の骨折について説明できるようにする。 ① 頭部骨折（頭蓋骨・顔面部） ② 脊柱の骨折 ③ 上肢帯（鎖骨・肩甲骨）の骨折 ④ 胸郭の骨折（肋骨・胸骨）の骨折
【授業外における学習方法】 ① 授業前に教科書を通読すること（意味が理解できなくても実施してもらいたい）
【成績評価方法】 ① 出席状況、授業態度も考量する場合がある。 ② 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。 ③ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、再試験を実施する。
【使用教材】 ① 全国柔道整復学校協会 監修 「柔道整復学・理論編」
【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折 P.148-149	講義
2	鼻骨骨折、鼻軟骨骨折、眼窩底破裂骨折 P.151-152	講義
3	頬骨骨折、下顎骨骨折、環椎破裂骨折	講義
4	軸椎歯突起骨折、ハングマン骨折、中・下位頸椎骨折	講義
5	胸椎骨折	講義
6	腰椎骨折	講義
7	総まとめ	講義
8	試験解説	講義
9	上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折(P181～183)	
10	上腕骨外科頸骨折(P183～184)	
11	上腕骨外科頸骨折(P185～186)	
12	上腕骨大結節単独骨折、小結節単独骨折、近位骨端線離開(P186～188)	
13	上腕骨骨幹部骨折(P188～190)	
14	上腕骨骨幹部骨折(P190～191)	
15	上腕骨骨幹部骨折(P191～192)	
16	上腕骨顆上骨折(P193～195)	
17	上腕骨顆上骨折(P196～198)	
18	上腕骨顆上骨折(P198～199)	
19	上腕骨外顆骨折(P200～201)	
20	上腕骨内側上顆骨折(P201～203)	
21	復習	
22	復習	
23	試験解説	
24	総復習	
25	肋骨骨折	
26	胸骨骨折	
27	鎖骨骨折①	
28	鎖骨骨折②	
29	鎖骨骨折・実技	
30	肩甲骨骨折	
31	復習まとめ	
32	試験解説	
33	全体の授業内容の説明・患者来院から診察手順・医科への検査の必要性	
34		
35	推測した負傷部位及び負傷名の確定と整復及び固定の必要性の判断と実施及び急性期外傷に対する初期処置(5P管理)と症状の経時的変化の理解	
36		
37	推測した負傷部位及び負傷名の確定と整復及び固定の必要性の判断と実施及び急性期外傷に対する初期処置(5P管理)と症状の経時的変化の理解	
38		
39	作成した治療計画に基づき、物理療法の体験及び実施	
40		
41	急性外傷に対する手技療法	
42		
43	急性外傷に対する運動療法	
44		
45	急性外傷に対する治療法(全体)	
46		
47	急性外傷の回復期までの治療計画 実技試験	
48		

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 午前部
開講年度 2025 年度	履修課程 1年生 第3期	担当教員 瀧下 晃洋	
講義区分 専門分野	授業科目名 物療機器の取扱い		1 単位 15 時間

【科目概要】

- ・柔道整復領域で使用する物理療法等の原理、作用などを学び、その適切な取り扱いができるように学習
- ・不適切な使用、副作用などについても十分に理解し、医療事故を防ぐための知識も習得する。

【到達目標】

- ・柔道整復師として必要となる物理療法について学習し必要となる知識を習得する。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【使用教材】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【その他】

【講義の内容・日程】

回	講義内容	備考
1	物理療法の概論	講義
2	物理療法の概論	講義
3	電気療法について	講義
4	電気療法について	講義
5	温熱療法について	講義
6	温熱療法について	講義
7	光線療法、寒冷療法について	講義
8	光線療法、寒冷療法について	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	1年生 第1期	荒井 一彦	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技① 固定法		1 単位 30 時間

【科目概要】 1年生で唯一の実技授業になります。柔道整復師にとって包帯は、武器になります。 みなさんが包帯を好きになってもらえたら幸いです。
【到達目標】 ・ 固定の意味や役割の理解 ・ 包帯の巻き方や巻き順、種類の理解 ・ 各関節の巻き方の理解 ・ 基本包帯の応用技術の習得
【授業外における学習方法】
【成績評価方法】 1学期：実技試験にて評価（基本包帯法） ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。 ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
【使用教材】 ・ 柔道整復学 理論 ・ 包帯固定学
【その他】 ・ 接骨院で外傷を見てきた経験を活かして、臨床的な実技を伝えていき、外傷に強い柔道整復師を目指した授業を行う。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	固定法概論	実技
2	包帯の取り扱いや名称	実技
3	包帯巻き戻し	実技
4	関節の動き	実技
5	環行帯・螺旋帯・蛇行帯	実技
6	折転帯・亀甲帯	実技
7	麦穂帯	実技
8	手関節～肘関節までの基本包帯	実技
9	肩関節上行麦穂帯	実技
10	肩関節下行麦穂帯	実技
11	股関節上行麦穂帯	実技
12	股関節下行麦穂帯	実技
13	足関節麦穂帯	実技
14	足関節亀甲帯	実技
15	手袋帯	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	1年生 第2期	荒井 一彦	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技② 固定法	1 単位	30 時間

【科目概要】 1 学期に学んだ基本包帯法を応用し、より実践的に学びましょう。
【到達目標】 ・ 固定の意味や役割の理解 ・ 包帯の巻き方や巻き順、種類の理解 ・ 各関節の巻き方の理解 ・ 基本包帯の応用技術の習得
【授業外における学習方法】
【成績評価方法】 2 学期：基本包帯や応用を用いた実技試験にて評価 ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。 ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。
【使用教材】 ・ 柔道整復学 理論 ・ 包帯固定学
【教科書・参考書】 ・ 接骨院で外傷を見てきた経験を活かして、臨床的な実技を伝え、外傷に強い柔道整復師の育成を目指す。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	ヴェルポー帯 右	実技
2	ヴェルポー帯 左	実技
3	ジュール帯 右	実技
4	ジュール帯 左	実技
5	デゾー1.2帯	実技
6	デゾー2.3帯	実技
7	デゾー1.2.3.4帯	実技
8	デゾー1.2.3.4帯	実技
9	膝関節テーピング	実技
10	足関節テーピング	実技
11	肘、肩関節テーピング	実技
12	手関節手指テーピング	実技
13	上半身ストレッチ	実技
14	下半身ストレッチ	実技
15	体幹ストレッチ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 午前部
開講年度 2025年度	履修課程 1年生 第2期	担当教員 川上智志、大木正浩	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技③		1 単位 30 時間

【科目概要】 国家試験に向けては、教科書を理解することが勉強の基本となるが、軟損各論では図などの不足により、プリントで勉強を進めていく。接骨院では、骨折・脱臼を治療する機会は減少しており、軟損疾患が大多数を占める。そのため軟損は国試対策のみではなく臨床にも通ずる知識を押さえない。
【到達目標】 各疾患を理解することで、臨床において症状より傷病名を推測し、適切な検査を行い、鑑別ができるようにする。
【授業外における学習方法】 授業前は教科書の該当ページで予習し、授業当日には復習を行うことを勧める。
【成績評価方法】 小テストは以下の計算式で学期評価点に反映する。50点 × 正解率（正解数／全問題数） 2期末評価点は、以下2つの合計点（合わせて最高100点） ①小テスト 50点 ②学期末テスト 60点 3期末評価は期末試験で行う。 総合評価は、2,3期の平均をとって採点する。
【使用教材】 補足資料を載せたプリントを中心に授業を効率良く進めていく。 講義のペースは少し早く、臨床で使える知識を含めて少し詳しい情報も入れていく。 接骨院での臨床経験を活かして、臨床に即した実技を行っていく。
【その他】 柔道整復理論第7版

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	肩関節部の軟部組織損傷 P350-352	実技
2	〃 P350-352	実技
3	〃 P352-357	実技
4	肩部・上腕部の軟部組織損傷 P356-359	実技
5	〃 P359-361	実技
6	肘部の軟部組織損傷 P361-364	実技
7	前腕部の軟部組織損傷 P364-367	実技
8	〃 P367-370	実技
9	手関節部の軟部組織損傷 P370-376	実技
10	手部、手指部の軟部組織損傷 P76-379 / P337-339	実技
11	頭部、顔面部の軟部組織損傷 P338-341	実技
12	頸部の軟部組織損傷 P341-342	実技
13	胸・背部の軟組織損傷 P342-345	実技
14	腰部の軟組織損傷 P345-349	実技
15	テスト解説	実技
16	各論 軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷 P380～383	実技
17	各論 軟部組織損傷 大腿部の軟部組織損傷 P383～386	実技
18	各論 軟部組織損傷 大腿部の軟部組織損傷	実技
19	各論 軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷 P386～394	実技
20	各論 軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷 P386～394	実技
21	各論 軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷	実技
22	各論 軟部組織損傷 下腿部の軟部組織損傷 P394～396	実技
23	各論 軟部組織損傷 下腿部の軟部組織損傷	実技
24	各論 軟部組織損傷 足関節部の軟部組織損傷 P396～402	実技
25	各論 軟部組織損傷 足関節部の軟部組織損傷 P396～402	実技
26	各論 軟部組織損傷 足関節部の軟部組織損傷	実技
27	各論 軟部組織損傷 足・趾部の軟部組織損傷 P402～406	実技
28	各論 軟部組織損傷 足・趾部の軟部組織損傷	実技
29	下肢軟部組織の総復習	実技
30	定期試験解説	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2025年度	履修課程 1年生 第2・3期	担当教員 ◎荒井一彦・吉田 晋・紺野直能・井口良平・菊地正	
講義区分 専門分野	授業科目名 臨床実習(1年生)		1 単位 45 時間

【授業の到達目標およびテーマ】 ・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際に接骨院で行われる業務と柔道整復術を理解する。
【講義概要】 臨床実習を行うにあたり、まずは医療接遇（挨拶、声掛け、姿勢）の重要性を自覚する。そうして、患者を通し「柔道整復師として」「医療人として」「人間として」ルールを守り、人との接し方・関わり方を身に付ける。 また、柔道整復師が通常の施術において、どのような事を行っているかを学ぶ。2年次の臨床実習を踏まえ、知識や技術を習得する。
【成績評価方法】 ・評価の観点は、意欲態度（35％）付帯業務（10％）診察補助（40％）業務理解（15％）の4項目とする。 ・実習過程で学生の進捗状況を評価し、まとめる。
【授業の特徴・形式】 ・実技形式を基本とする。
【教科書・参考書】 ・包帯固定学 南江堂 ・柔道整復学 理論編 南江堂 ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	第1～4日目	院内清掃	実技
2		挨拶、声掛け	実技
3		医療面接の基礎	実技
4		患者評価(体表解剖、ROM評価等)	実技
5		診療補助①(物理療法の基礎、基本包帯法等)	実技
6		診療補助②(整復、固定補助)	実技
7		各疾患のQ&A	実技
8			実技
9			実技
10			実技
11			実技
12	第5日目	総まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2025 年度	1年生 第1期	煙山奨也、西健喜、菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	スポーツ総合基礎①		1 単位 15 時間

【授業の到達目標およびテーマ】 ・スポーツ医科学の基本的知識、トレーニングおよびスポーツコンディショニングに関する基礎知識を習得する。
【講義概要】 ・スポーツ医科学を基礎としたスポーツコンディショニング、トレーニングに関する知識について講義する。 また、コーチやトレーナーの役割や制度の現状を理解し、スポーツ現場における活動のポイントについて解説する。
【成績評価方法】 ・各授業における課題提出、小テスト、授業態度などで総合判断します。
【授業の特徴・形式】 ・講義形式を基本とする。
【教科書・参考書】 ・リファレンスブック 公益財団法人日本スポーツ協会

【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容	備考	担当教員
1	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 体力のトレーニング	講義	煙山奨也
2	体力のトレーニング スキルトレーニング	講義	煙山奨也
3	スポーツに関する医学的知識(救急処置)	講義	煙山奨也
4	スポーツに関する医学的知識(スポーツバイオメカニクス) スポーツに関する医学的知識(運動器)	講義	煙山奨也 西健喜
5	スポーツに関する医学的知識(運動器・循環器・呼吸器)	講義	西健喜
6	スポーツに関する医学的知識(ジュニア期・青壮年期・高齢期) スポーツに関する医学的知識(コンディショニング基礎)	講義	西健喜 菊地正
7	スポーツに関連する医学的知識(コンディショニング応用) スポーツに関連する医学的知識(コンディショニング手法)	講義	菊地正
8	アンチドーピング	講義	菊地正

東京柔道整復専門学校

開講課程		開講学科		コース		昼夜別			
柔道整復専門課程		柔道整復科		柔道整復コース(3年制)		昼間部(午前)			
開講年度		履修課程		担当教員					
2025	年度	1年生	第1期	菊地正 煙山奨也 中谷三保子 片岡沙織					
講義区分		授業科目名							
専門分野		スポーツ総合基礎②				1	単位	15	時間

【授業の到達目標およびテーマ】 ・公認スポーツ指導者(グッドコーチ)に求められる医・科学的知見を理解し、スポーツに必要な解剖生理学、トレーニングやコンディショニングの知識を習得する。
【講義概要】 ・適切な指導体系、コミュニケーション能力を習得する。また、競技者の意欲や自主的、自発的な活動を促し、現場におけるコーチとしてスポーツ場面で の問題解決能力と指導法を身につけることを目標とする。
【成績評価方法】 ・各授業における課題提出、発表、小テスト、授業態度などで総合判定します。
【授業の特徴・形式】 ・講義形式を基本とし、演習も取り入れて行う。
【教科書・参考書】 ・リファレンスブック 公益財団法人日本スポーツ協会

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	コーチングとは/コーチングに求められる役割	講義 菊地正
2	コーチに求められる知識とスキル コーチに求められる知識とスキル(演習)	講義 演習 菊地正
3	対他者力を磨こう/対自己力を学ぼう	講義 菊地正
4	時代をリードするコーチング/コーチング環境の特徴	講義 菊地正
5	時代をリードするコーチング(演習)/パフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング(演習)	演習 菊地正
6	スポーツの意義と価値/スポーツの価値を守るスポーツ権	講義 煙山奨也
7	スポーツの自治(ガバナンスとコンプライアンス) スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任・スポーツ仲裁	講義 煙山奨也
8	スポーツの自治(ガバナンスとコンプライアンス)	講義 煙山奨也
9	暴力・ハラスメントの根絶・スポーツのインテグリティ/スポーツ倫理	講義 煙山奨也
10	スポーツ組織のマネジメント スポーツ組織のマネジメント(演習)	講義 演習 煙山奨也
11	心のトレーニング	講義 中谷三保子
12	心のトレーニング(演習)	演習 中谷三保子
13	スポーツと栄養	講義 片岡沙織
14	障害者とスポーツ	講義 菊地正
15	障がい者とスポーツ(演習)	演習 菊地正